

中間のまとめに向けて（これまでの会議の意見まとめ）

1 子どもと子育て家庭への支援に関する現状の課題について  
 （主な意見）

分類	課題の内容
保護者・家庭	幼稚園・保育園で子ども家庭支援センターと連携を必要とするケースが増えている
	保護者対応が難しく、親育ちのサポートが必要と思われるケースも増えている
	子どもについて、園や学校の現場での認識と、家庭の認識が違うことも多い
	共働き世帯の増に伴い、学校とうまくつながれないケースも増えている
子どもの発達	発達の気になる子どもについて、特に診断のないケースが増えているが、保護者の受容がない中での支援が難しい
困難さの多様化	子ども自身の発達以外にも、愛着形成や家庭環境等、支援を必要とする要因が多様化している
	一つの機関だけでは対応できない複雑な課題を持つ家庭が増えている
外国人	外国にルーツのある家庭が増えているが、言葉の問題などにより、支援が難しい
貧困	生活困窮世帯に対するアウトリーチや伴走型の支援をより手厚くする必要がある
居場所	不登校のケースなど、学齢期の子どもで、居場所がない子どもが一定数いると思われる
コロナ禍	コロナ禍を受け、子育て中の家庭がどのような困難を抱えているか、実態が見えにくくなっている
	コロナ禍による働き方の変化を受け、保護者のストレスがたまっていると思われる家庭がある
支援機関	関係機関の間で支援に関する考え方にずれがあり、連携がうまくいかないことがある
	小学校就学時、中学校進学時などの支援者間の情報連携が不十分で、進学後にはじめて問題に気づくことがある
	支援を必要とする家庭が増えており、支援機関のマンパワーが不足しているのではないかと感じることもある

## 2 子どもと子育て家庭への望ましい支援のあり方について（第2回会議後追記）

（主な意見）

分類	望ましい支援のあり方
切れ目のない支援	関係機関同士の顔の見える関係が構築されていて、支援に関する細かい部分の認識まで共有ができています
	ライフステージを通じて、一貫した支援が受けられるような体制が整っている
	学校教育・福祉の体系を超えた情報の連携ができる
ポピュレーションアプローチ	全ての家庭に対して、母子保健と子育て支援の連携による、予防を重視した支援が行われている
重層的な支援	拠点となる専門機関だけでなく、親子と一番近い地域も含めた、多職種連携による重層的な支援が行われている
	様々な課題のある家庭を専門機関だけで抱えるのではなく、同時に、誰にでも開かれている子育て支援サービスにアクセスしてもらうことができている
	手渡すのではなく、重ねていく支援が行われる（縦割りではなく横串の連携）
	拠点だけではなく、別の場所でも支援が受けられる出張所のような場所があると、関係がうまくいかなかったときに新たな相談関係が築ける
アウトリーチ	支援サービスにアクセスすることが難しい家庭に対して、積極的にアウトリーチによる支援が行われている
保護者への支援	様々な要因から、育てにくさを感じている保護者に対して、各機関がきちんとコミュニケーションを取りながら、何かあったらすぐにサポートできる体制が整えられている
	発達の気になる子どもや医療的ケアを必要とする子どもを持つ親など、子育てに困難さを感じる保護者同士がつながることのできるような、日常的な交流の場が準備されている
	ソーシャルワーカーが個別に寄り添って相談窓口へつなげられる
親育ちのサポート	子育ての中で、親自身が成長することのできるような、親支援のプログラムが準備されている
	学生のうちから、赤ちゃんに触れたり、子育てについて学んだりすることのできる機会がある
居場所	家庭や学校などに居場所がない子どもでも利用できるような、地域の居場所が用意されている
	発達の気になる子どもや医療的ケアを必要とする子どもを持つ親など、子育てに困難さを感じる保護者同士がつながることのできるような、日常的な交流の場が準備されている（再掲）
その他	どこか特定の困難層にだけ目を向けるのではなく、既存の施策が行き届かない層も含めて切れ目なく支援を行う必要がある。

### 3 望ましい支援を行うための複合施設のあり方について

分類	基本的な考え方
基本的な視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の支援の良いものは残し、対応できていない課題や支援が行き届いていない部分については複合施設で新しく対応できると良い</li> <li>・拠点となる複合施設ができて、相談件数が増えた時でも対応できるよう、啓発や予防も含めた全体的なシステムについて考えていく必要がある</li> <li>・後から機能が付加されていくこともあるので、施設全体としてゆとりを持った設計が必要</li> </ul>
連携システムの拠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ同じ施設に入るだけではなく、各機能が組織的に連携する仕組みづくりこそが重要</li> <li>・拠点の施設が各機関を結ぶような、「システムとしての複合施設」としてとらえると良い</li> <li>・すでにある地域の資源をそれぞれ有効に連携させられるような複合施設であると良い</li> <li>・様々な事例について支援のコーディネートをするようなセクションを置く必要がある</li> </ul>
重層的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設でモデルを作って、それを外に広げていくというだけではなく、市内の小さなグループが培ってきた優れた活動を、逆に施設に取り入れるような考え方があっても良い</li> <li>・施設の話とあわせて、地域とは何か、多様な人たちが武蔵野市の子どもとつながるにはどうしたらいいか、といったことも考えていく必要がある</li> <li>・中央に拠点となる複合施設があることに加えて、各地域にもサテライトのような形で支援を受けられる場所があることが安心につながる</li> <li>・支援がマッチしなかった場合でも、次の策が取れるような別の窓口が多層的に存在すると良い</li> <li>・家庭への支援として考えた場合、子ども部門以外の機関とのつながりも必要となる</li> </ul>
誰ひとり取りこぼさないような支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの支援が重要かという選別を行うのではなく、既存の支援が行き届かない層にも支援メニューを用意していくスタンスが必要</li> <li>・緊急時の対応など、表に出ていない裏のメニューを用意してあることが重要</li> </ul>
ユーザー目線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度や組織側ではなく、子どもや家庭の視点で複合施設のあり方を考えていけると良い</li> <li>・支援に対して当事者の意見を聞ける制度を作っていく必要がある</li> <li>・発達の気になる子どもの支援について、そこに行ったら診断されてしまう、という施設ではなく、入りやすい雰囲気施設になると良い</li> </ul>